

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	84人	国語B	84人
② 算数A	84人	算数B	84人

5 留意事項

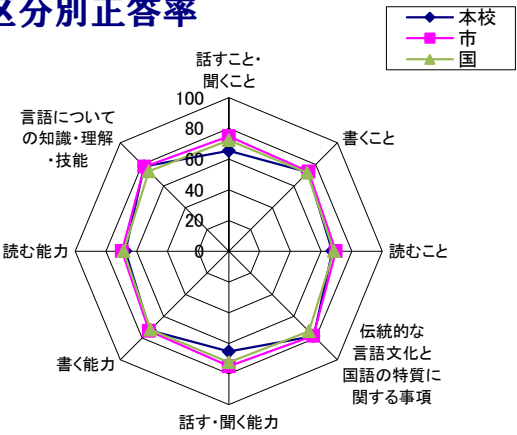
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

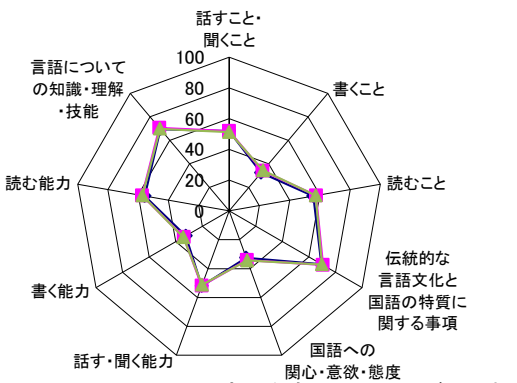
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	65.4	74.9	72.4
	書くこと	72.8	73.4	72.2
	読むこと	67.3	69.7	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.1	77.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	65.4	74.9	72.4
	書く能力	72.8	73.4	72.2
	読む能力	67.3	69.7	68.5
	言語についての知識・理解・技能	78.1	77.8	73.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	52.0	51.9	51.2
	書くこと	32.5	34.0	34.4
	読むこと	55.7	57.5	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.5	70.5	69.8
観点	国語への関心・意欲・態度	32.5	34.0	34.4
	話す・聞く能力	52.0	51.9	51.2
	書く能力	32.5	34.0	34.4
	読む能力	55.7	57.5	57.3
	言語についての知識・理解・技能	69.5	70.5	69.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○国語に関するほとんどの質問において、肯定的な回答の割合は、全国平均を上回っている。児童の国語を学ぼうとする意欲が高いと思われる。

○「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫している」と回答している児童の割合は、全国平均を特に上回っている。

●「読書が好き」と回答している児童の割合は、59.6ポイントで全国平均より13.4ポイント下回っている。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

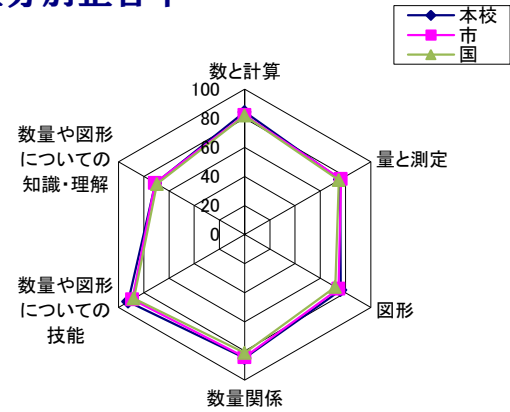
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・A 領域の平均正答率は65.4%で、市平均より9.5ポイント低く、全国平均より7ポイント低い。 ●話し合いの観点に基づいて情報を関係付ける設問についての正答率が全国平均より7ポイント以上低く課題が見られる。 ・B 領域の平均正答率は52.0%で、市平均より0.1ポイント高く、全国平均より0.8ポイント高い。	・話し合いの学習を行う際、話し手の意図や工夫を考えながら聞くことができるようにするとともに、様々な話し合いの場面で、話し手や聞き手、司会者などそれぞれの立場に立って話したり聞いたりする学習を取り入れていく。
書くこと	・A 領域の平均正答率は72.8%で、市平均より0.6ポイント低く、全国平均より0.6ポイント高い。 ・B 領域の平均正答率は32.5%で、市平均より1.5ポイント低く、全国平均より1.9ポイント低い。 ●二つの詩を比べて読み、自分の考えや条件に合わせた文章を書くことの正答率が全国平均より4.2ポイント低く課題が見られる。	・国語の学習だけでなく、総合的な学習などの他の教科においても自分の意見を書く機会を設け、作文力が高まるようにする。その際、必ず使用する言葉を入れたり、文字数を制限したりするなど、条件を付けた文章を書けるように指導していく。
読むこと	・A 領域の平均正答率は67.3%で、市平均より2.4ポイント低く、全国平均より1.2ポイント低い。 ●新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する設問の正答率が全国平均より5ポイント以上低く課題が見られる。 ・B 領域の平均正答率は55.7%で、市平均より1.8ポイント低く、全国平均より1.6ポイント低い。	・説明的な文章の学習において、文章の話題、理由や根拠となる内容、構成の仕方や叙述などに注意させながら、文章の要旨や段落相互の関係をとらえるよう指導していく。 ・文章を比較して読んだり、自分の考えをまとめたりする活動や、自他の思考を交流する言語活動を取り入れ、理解を深める指導をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・A 領域の平均正答率は78.1%で、市平均より0.3ポイント高く、全国平均より4.4ポイント高い。 ○漢字の読み書きや故事成語の意味や使い方に対する設問の正答率が全国平均や市より高く、漢字や故事成語の定着に一定の成果が見られる。 ・B 領域の平均正答率は69.5%で、市平均より1ポイント低く、全国平均より0.3ポイント低い。	・漢字小テストや漢字50題テスト、チャレンジテストへの取り組みで、繰り返し練習したり、再テストを行ったりすることにより、漢字の定着が図られてきているので、引き続き指導をしていく。 ・故事成語や四字熟語の意味や使い方について、国語辞典や漢字辞典を使って調べ、興味関心を持たせる。また、普段の生活でも進んで使うよう指導していく。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

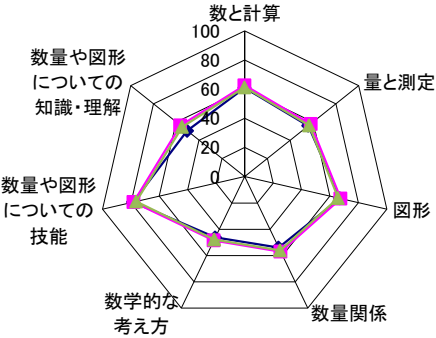
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	84.3	82.2	81.8
	量と測定	75.7	76.4	74.8
	図形	76.2	74.5	71.8
	数量関係	84.8	84.2	81.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	92.3	89.1	87.9
	数量や図形についての知識・理解	70.8	71.1	69.5



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	61.0	62.6	61.3
	量と測定	55.9	58.0	56.5
	図形	67.1	67.5	65.7
	数量関係	53.9	57.1	56.2
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	46.3	48.6	47.8
	数量や図形についての技能	78.4	78.1	76.2
	数量や図形についての知識・理解	50.4	56.3	54.8



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○算数に関するすべての質問において、肯定的な回答の割合は、全国平均を上回っている。児童の算数を学ぶ意欲が高いことが分かる。
○「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答している児童の割合は、全国平均を特に上回っている。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・A 領域の平均正答率は84.3%で、市平均より2.1ポイント高く、全国平均より2.5ポイント高い。 ○小数第1位までの減法の計算や商が小数になる除法の計算では、計算の定着に一定の成果が見られる。 ・B 領域の平均正答率は61.0%で、市平均より1.6ポイント低く、全国平均より0.3ポイント低い。 ●公倍数に着目して記述する設問の正答率が全国平均より5ポイント以上低く課題が見られる。	・基礎力を付けることを重視したぐんぐんタイムやチャレンジテストへの取り組みを引き続き行い、指導していく。公倍数についても復習を行い、繰り返して学習することで定着を図る。
量と測定	・A 領域の平均正答率は75.7%で、市平均より0.7ポイント低く、全国平均より0.9ポイント高い。 ●単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付ける設問の正答率が全国平均より2.1ポイント低く、課題が見られる。 ・B 領域の平均正答率は55.9%で、市平均より2.1ポイント低く、全国平均より0.6ポイント低い。 ●グラフを活用した設問の正答率が全国平均より10ポイント以上低く課題が見られる。	・単位量当たりの大きさについては、身近な具体例を示しながら整理したり、図を活用して視覚的に場面をとらえさせたりしながら、場面の理解と数量関係の把握に重点をおいて指導していく。 ・グラフの活用については、全体と部分、部分と部分の間の関係がとらえやすい割合のグラフの特徴について、棒グラフや折れ線グラフとの違いを意識させながら指導していく。
図形	・A 領域の平均正答率は76.2%で、市平均より1.7ポイント高く、全国平均より4.4ポイント高い。 ○立体図形とその見取り図の辺や面のつながりや位置関係についての設問では、全国平均より8.4ポイント高い。学習内容をよく理解しており、一定の成果が見られる。 ・B 領域の平均正答率は67.1%で、市平均より0.4ポイント低く、全国平均より1.4ポイント高い。	・正多角形と円、角柱と円柱については、作図や面積・体積の練習問題を行い、さらに定着を図るよう指導していく。
数量関係	・A 領域の平均正答率は84.8%で、市平均より0.6ポイント高く、全国平均より3.5ポイント高い。 ○四則の混合した式の計算では、全国平均より4.1ポイント高く式の意味について理解している。 ・B 領域の平均正答率は53.9%で、市平均より3.2ポイント低く、全国平均より2.3ポイント低い。 ●繰り返されるリズムの規則性を見出し、それをもとに答えを求める設問の正答率が低く、課題が見られる。	・整数の性質については、偶数と奇数、倍数、約数について、表や数直線を用いて筋道を立てて考えたり、繰り返して学習したりすることで定着を図る。

宇都宮市立御幸小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

生活について

○「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の項目で全国の肯定割合を上回っている。規則正しい生活の習慣が身に付いているので、引き続き指導をしていく。

○「自分には、良いところがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」の項目で全国の肯定割合を上回っている。引き続き自己肯定感を高め、何事にも挑戦していこうという気持ちを育てていくよう励ましていく。

○「携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットの使用」の項目で、所持していない割合が全国の肯定割合を大きく上回っている。携帯電話の必要性や使用方法について授業や懇談会などで話題にしていく。また、フィルタリングについても保護者に対して、必要性やかけ方について情報提供していき、携帯電話の危険性について周知していく必要がある。

●「月～金曜日の一日当たりのテレビやビデオ・DVDの視聴やテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)の使用の時間が1時間以上2時間より少ない」児童が全国の肯定割合を上回っており、ゲームへの依存の高さや室内での過ごし方に偏りが見られる。これらは、体力の低下にもつながっており、外遊びや運動に取り組めるよう各種便り等を通じて家庭に啓蒙していく。

学校や家庭での学習について

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「テレビのニュース番組やインターネットのニュースをみる」の項目で、全国の肯定割合を上回っていることから、身の回りのことだけでなく、世の中のことまで関心が高まってきているのが分かる。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の項目でも全国の肯定割合を大きく上回っており、社会的貢献度も芽生えてきている。学級や学年、学校のためにできることを考え、実践する機会や場を設けていくようにする。

○「授業の中で分からないことがあったら、どうするか」の項目では教師(その場で、授業後)・友達・家の人・学習塾の先生に尋ねるが約80%を占め、約10%が自分で調べるという結果になった。そのままにしておくは、いなかった。何らかの方法で解決しようとしており、これからも課題を解決しながら学習を進められるよう教師もさらに細やかな指導をしていくようにする。

●「家での宿題や、授業の予習」の項目で全国の肯定割合を下回っており、学習に対して受け身の児童が多いことが分かる。家庭学習の仕方を具体的に示して指導するとともに、学年だよりや懇談会等で家庭にも協力を依頼し、自分の計画で進んで学習に取り組めるようにしていく。